

[評価結果の公表様式]

愛知県福祉サービス第三者評価事業 評価結果

①第三者評価機関情報

評価機関名: 株式会社 中部評価センター (認証番号: 24地福第3-3号)
訪問調査 実施日: 平成28年1月27日(水)

②事業者情報

名称:(法人名) 江南市(株式会社日本保育サービス) (施設名) 江南市立布袋北保育園	種別:(施設種別) 保育所 (基準の種類) 児童福祉施設(保育所版)
代表者氏名:(園長) 加藤 直美	定員(利用人数): 140名(133名)
所在地: 〒483-8116 江南市安良町八王子137	TEL 0587-56-3689

③総評

<p>◇特に評価の高い点</p> <p>◆リーダーシップの発揮 園長が強いリーダーシップを発揮している。 ①利用者サイド(保護者、祖父母等)の子育てへの関心が強く、発表会などは遊戯室に入れられないような状況である。そのため、発表会を1日は祖父母に、もう1日は保護者にと、2日間の開催にして子どもたちの育ちや取り組んできた活動等を、保護者や地域の方に伝える工夫をしている。保育参観は年2回の計画であるが、参観日を4日間設定して保護者が都合の良い日を選べるよう配慮している。 ②12月に、倉庫・ボイラー室を改修して乳児用の保育ルームを2部屋増設した。乳児の受け入れを願う行政の意向と、小集団での乳児保育を実践しようとする園長の思いが合致し、はからずも保育環境の整備につながった。乳児の部屋としての環境整備はこれからであるが、乳児の発達を考え、小集団での保育を重視しての考えからの決断でもある。 ③園長自らの専門性を磨くため、法人が企画している海外視察研修(ドイツ)に積極的に参加した。そこで得たことが刺激となり、保育の見直しに繋がった。視察研修で得た「職員の育成」、「自ら育つ仲間」、「個性の尊重」等、人事管理面にも意識改革の幅が広がっている。</p> <p>◆職員研修の考え方 職員研修の計画の立て方が秀逸である。前期は職員の自主性を重んじ、職員個々が研修内容を選んで研修に参加している。後期は園長代理が不足部分の教育を定期的に見直すため、職員個々に合った研修の受講を勧めている。現時点では人事考課との関連が薄い、人事考課の結果が職員個々の教育・研修ニーズに反映されるようになれば、職員の能力開発(資質向上)を支援する大きな仕組みとなろう。</p> <p>◇改善を求められる点</p> <p>◆地域交流の拡大を 子どもと地域との交流が少ない。「地域が子どもを育てる」との意識は持っているが、方向性が示された事業計画が見当たらない。そのためか発展性も見られない。子どもたちの活動から、地域との係わりが持てそうなことを課題にしたり、アンケートをヒントにしたりして、地域との交流が拡大することを望みたい。</p> <p>◆記録の必要性和安心・安全な保育との関係 アセスメントの記入後に、保育の内容は随時変更しているものの、書類の見直しは年度末のため、記入漏れや変更の情報不足がみられる。そのため、保育時間の変更は確認できるが名簿等に漏れがある。事故が起きた場合に、病院での受診状況や経過の対応は記されているものの、事故後の再発防止の対応策が講じられていなかった。今一度「安全・安心」の理念の確認をされたい。</p> <p>◆計画策定を職員参画の下で 中・長期計画や事業計画の策定や見直し時に、職員参画の機会が少ない。職員の意識改革や保育士としての資質向上のためにも、保育現場の職員の参画の下での計画策定を望みたい。</p>

④第三者評価結果に対する事業者のコメント

評価者の方が園に寄り添ってくださっていることが伝わり、アドバイスも適確でありがたかったです。足りない部分を具体的に指導していただけたので、とても助かりました。

⑤第三者評価結果

別紙の「第三者評価結果」に記載している事項について公表する。

評価項目(細目)の評価結果(保育所)

※すべての評価細目(77項目)について、判断基準(の3段階)に基づいた評価結果を表示する。

評価対象 I 福祉サービスの基本方針と組織

I-1 理念・基本方針

		第三者評価結果	
I-1-(1) 理念、基本方針が確立されている。			
I-1-(1)-①	理念が明文化されている。	保 1	Ⓐ ・ b ・ c
I-1-(1)-②	理念に基づく基本方針が明文化されている。	保 2	Ⓐ ・ b ・ c
I-1-(2) 理念、基本方針が周知されている。			
I-1-(2)-①	理念や基本方針が職員に周知されている。	保 3	Ⓐ ・ b ・ c
I-1-(2)-②	理念や基本方針が利用者等に周知されている。	保 4	Ⓐ ・ b ・ c

評価機関のコメント

第三者評価受審は7回目となり、法人の理念も浸透してきている。職員に対しては採用時に文書による研修を受け、会議や行事ごとに話題にしていることで理念の確認になっている。保護者に対しては、リーフレットや「保育園のしおり」、「入園・進級のしおり」等にも必ず記載しており、イメージが湧くように文書化して理解が進むように工夫している。保護者アンケートでも高い確率で周知されていた。

I-2 事業計画の策定

		第三者評価結果	
I-2-(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。			
I-2-(1)-①	中・長期計画が策定されている。	保 5	a ・ Ⓑ ・ c
I-2-(1)-②	中・長期計画を踏まえた事業計画が策定されている。	保 6	Ⓐ ・ b ・ c
I-2-(2) 事業計画が適切に策定されている。			
I-2-(2)-①	事業計画の策定が組織的に行われている。	保 7	a ・ Ⓑ ・ c
I-2-(2)-②	事業計画が職員に周知されている。	保 8	Ⓐ ・ b ・ c
I-2-(2)-③	事業計画が利用者等に周知されている。	保 9	Ⓐ ・ b ・ c

評価機関のコメント

中・長期計画策定は、26年度から31年度までを単年度の事業計画として作成している。単年度の積み上げ式のため継続性が明確ではないが、今年度は園長が理念から目標・具体的な取り組みまでを記載し、3年後の子どもの姿を仮説にして方向性を示している。ローリング式にはなっていないものの、保育面・人事面・財政面が網羅され、具体的な取り組みが事業計画に反映しやすくなっている。事業計画は主に園長・園長代理を中心に作成され、職員会議等で周知を図っている。利用者には入園式等を利用して説明し、周知を図っているものの、職員参画の面で課題が残っている。園長は、「今後は職員参画の下で意識高め、利用者には説明資料を分かりやすく工夫したい」と、意欲的である。

I-3 管理者の責任とリーダーシップ

		第三者評価結果	
I-3-(1) 管理者の責任が明確にされている。			
I-3-(1)-①	管理者自らの役割と責任を職員に対して表明している。	保 10	Ⓐ ・ b ・ c
I-3-(1)-②	遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。	保 11	a ・ Ⓑ ・ c
I-3-(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。			
I-3-(2)-①	質の向上に意欲を持ちその取組に指導力を発揮している。	保 12	Ⓐ ・ b ・ c
I-3-(2)-②	経営や業務の効率化と改善に向けた取組に指導力を発揮している。	保 13	Ⓐ ・ b ・ c

評価機関のコメント

市の園長会や法人の園長会に出席し、自らの専門性を磨くために法人が企画した海外視察研修(ドイツ)に参加している。そのことを契機に、園長自身が保育を見直したり、自信に繋がったりしている。今年度の重点的な運営目的には、4つの理念のうちの「職員が楽しく働ける職場」を挙げている。メンバーの育成・自ら育っていく仲間・個性の尊重・新任は経験者が丁寧に1から教えていく等、園長と園長代理のコンビにも拍車がかかる。乳児の人数が多くなり、倉庫・ボイラー室を乳児の部屋に改造した。乳児の受け入れを望む行政と、小集団での乳児の保育を望む園長の思いが合致しての成果である。ただ、環境構成面からすれば、早急に乳児保育に相応しい部屋に整備をされることを望みたい。

評価対象Ⅱ 組織の運営管理

Ⅱ-1 経営状況の把握

		第三者評価結果	
Ⅱ-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。			
Ⅱ-1-(1)-①	事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。	保 14	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅱ-1-(1)-②	経営状況を分析して改善すべき課題を発見する取り組みを行っている。	保 15	a ・ Ⓑ ・ c
Ⅱ-1-(1)-③	外部監査が実施されている。	保 16	Ⓐ ・ b ・ c

評価機関のコメント

定員140名で利用者が133名、ほぼ定員一杯の状態であり、来年度も今年度の卒園児分と同等の入園はあるだろうと把握し、推移を分析している。乳児が全体の40%近くを占め、今年度途中で空き倉庫を乳児室に改造した経緯がある。乳児の利用希望者把握は十分ではないが、ニーズは増える傾向が考えられている。乳児保育を充実させるにあたり、看護師の必要性が大になってきている。調査日当日、園長と園長代理が保護者からの与薬依頼書に基づき、事務室で薬を投与していた。乳児は担任が薬を投与し、安心・安全の保育を実践している。おりしも平成28年度の事業計画作成の時期でもある。職員と共に検討して取り組み、中・長期計画や事業計画に反映されたい。外部監査は法人契約で実施されており、会社の内部監査も受けている。

Ⅱ-2 人材の確保・養成

		第三者評価結果	
Ⅱ-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。			
Ⅱ-2-(1)-①	必要な人材に関する具体的なプランが確立している。	保 17	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅱ-2-(1)-②	人事考課が客観的な基準に基づいて行われている。	保 18	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅱ-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。			
Ⅱ-2-(2)-①	職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。	保 19	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅱ-2-(2)-②	職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。	保 20	Ⓐ ・ b ・ c

II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。			
	II-2-(3)-① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。	保 21	a ・ ㉞ ・ c
	II-2-(3)-② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。	保 22	㉠ ・ b ・ c
	II-2-(3)-③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。	保 23	㉠ ・ b ・ c
II-2-(4) 実習生の受入れが適切に行われている。			
	II-2-(4)-① 実習生の受入れと育成について基本的な姿勢を明確にした体制を整備し、積極的な取り組みをしている。	保 24	㉠ ・ b ・ c

評価機関のコメント

<p>職員研修は、市・法人・園内・自主と選択権が多様である。人事考課とも関係するが、前期は職員の自主性を重んじて職員個々が研修内容を選び、後期は園長代理が不足部分の教育を定期的に見直すために、職員個々に合った研修内容を勧めている。研修計画は法人からは出ているが、市からはリストのみで目的・研修内容が分かる資料ではない。園内研修も同様である。研修が求める職員の資質向上に役立てるためにも、基本姿勢を明確にすることを望みたい。</p> <p>今年度は2名の保育実習生の受け入れがあった。評価表は全て養成校に送付し、残ってはいなかったが、出席簿や学生が学んだことはコピーで残っていた。それらを基にした反省会の記録が残っており、有効な振り返りが行われた。</p>

II-3 安全管理

			第三者評価結果
II-3-(1) 利用者の安全を確保するための取り組みが行われている。			
	II-3-(1)-① 緊急時(事故、感染症の発生時など)における利用者の安全確保のための体制が整備されている。	保 25	㉠ ・ b ・ c
	II-3-(1)-② 災害時に対する利用者の安全確保のための取り組みを行っている。	保 26	㉠ ・ b ・ c
	II-3-(1)-③ 利用者の安全確保のためにリスクを把握し対策を実行している。	保 27	a ・ ㉞ ・ c
	II-3-(1)-④ 調理場、水周りなどの衛生管理が適切に実施され、食中毒等の発生時に対応できるような体制が整備されている。	保 28	㉠ ・ b ・ c

評価機関のコメント

<p>緊急・災害時に対応するマニュアルがあり、毎月実施される避難訓練や不審者対応訓練などに活用している。散歩(ハザード)マップをイラストの得意な保育士が作成中である。職員の就業状況とも関連するが、組織的に計画して早急に完成されたい。事故対応は病院での受診状況や経過の対応は記されているものの、事故後の再発防止の対応策が講じられていなかった。</p> <p>調理場は施設が古いため、衛生面を重要視して安全確保に取り組んでいる。県の衛生指導監査では、「構造上の問題で下処理ゾーンの区切りが難しい」との指摘を受けた。運営理念である「安心・安全」を担保する為にも、衛生管理の徹底をお願いしたい。他園の職員が安全点検に訪れたり、会社の内部監査が抜き打ちで実施される等、「安全・安心」を補っている面もある。</p>

II-4 地域との交流と連携

			第三者評価結果
II-4-(1) 地域との関係が適切に確保されている。			
	II-4-(1)-① 利用者地域とのかかわりを大切にしている。	保 29	a ・ ㉞ ・ c
	II-4-(1)-② 保育所が有する機能を地域に還元している。	保 30	㉠ ・ b ・ c
	II-4-(1)-③ ボランティア受入れに対する基本姿勢を明確にし、体制を確立している。	保 31	a ・ ㉞ ・ c

II-4-(2) 関係機関との連携が確保されている。			
	II-4-(2)-① 必要な社会資源を明確にしている。	保 32	Ⓐ ・ b ・ c
	II-4-(2)-② 関係機関等との連携が適切に行われている。	保 33	Ⓐ ・ b ・ c
II-4-(3) 地域の福祉向上のための取り組みを行っている。			
	II-4-(3)-① 地域の福祉ニーズを把握している。	保 34	a ・ Ⓑ ・ c
	II-4-(3)-② 地域の福祉ニーズに基づく事業・活動が行われている。	保 35	Ⓐ ・ b ・ c

評価機関のコメント

<p>事業計画に、地域交流の方向性を示した文言は見当たらない。26年度の事業報告には、畑の世話の指導・手助けを受けることを地域交流として記述している。しかし、27年度の事業計画には地域交流の項目がなく、具体的な取り組みの発展性が見られない。中・高生の職場体験を受け入れており、来援した学生が卒園児だった、という楽しいエピソードもある。</p> <p>ボランティアの受け入れはあるが、終了した後の評価の記録が残されていなかった。子育て支援として、園庭解放や市の支援センタースタッフによる「ほほえみ広場」を行っている。保育の継続性にも配慮し、記録が欠落している部分に関しては、目的、活動内容、参加者名簿、ニーズ把握等に照らし、さらなる記録の整備を進められた。</p>			
---	--	--	--

評価対象Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス

			第三者評価結果
Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。			
	Ⅲ-1-(1)-① 利用者を尊重したサービス提供について共通の理解をもつための取り組みを行っている。	保 36	Ⓐ ・ b ・ c
	Ⅲ-1-(1)-② 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。	保 37	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-1-(2) 利用者満足の向上に努めている。			
	Ⅲ-1-(2)-① 利用者満足の向上を意図した仕組みを整備し、取り組みを行っている。	保 38	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-1-(3) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。			
	Ⅲ-1-(3)-① 利用者が相談や意見を述べやすい環境を整備している。	保 39	Ⓐ ・ b ・ c
	Ⅲ-1-(3)-② 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。	保 40	a ・ Ⓑ ・ c
	Ⅲ-1-(3)-③ 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。	保 41	Ⓐ ・ b ・ c

評価機関のコメント

<p>毎朝、園長、園長代理が交代で門の前に立ち、保護者との会話の中から意見や要望を聞き取るようにしている。行事ごとにアンケートを取り、保護者の意見が述べやすい環境になっている。アンケートの結果は、後日保護者に配布して共有を図っている。職員が見聞きした意見に対しては、園長、園長代理に報告するようになっており、園長が対応することとしている。しかし、保護者の言葉を「苦情・クレーム」とするのか、「意見や要望」と捉えるのかは個人差があるため、それらの意見や要望を記録に残し、全職員が共通理解できるような工夫を望みたい。</p> <p>前回の受審時に気になった保育室の鍵については、使用している様子は見られなかった。</p>			
--	--	--	--

Ⅲ-2 サービスの質の確保

			第三者評価結果
Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。			
	Ⅲ-2-(1)-① サービス内容について定期的に評価を行う体制を整備している。	保 42	Ⓐ ・ b ・ c
	Ⅲ-2-(1)-② 評価結果に基づき組織として取り組むべき課題を明確にし、改善策・改善計画を立て実施している。	保 43	Ⓐ ・ b ・ c

Ⅲ-2-(2) 提供するサービスの標準的な実施方法が確立している。			
Ⅲ-2-(2)-①	提供するサービスについて標準的な実施方法が文書化されサービスが提供されている。	保 44	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-2-(2)-②	標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	保 45	a ・ Ⓑ ・ c
Ⅲ-2-(3) サービス実施の記録が適切に行われている。			
Ⅲ-2-(3)-①	利用者に関するサービス実施状況の記録が適切に行われている。	保 46	a ・ Ⓑ ・ c
Ⅲ-2-(3)-②	利用者に関する記録の管理体制が確立している。	保 47	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-2-(3)-③	利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。	保 48	Ⓐ ・ b ・ c

評価機関のコメント

<p>第三者評価を毎年受審し、評価結果を参考にして改善を図ろうとの努力が見られる。行事に関しては、保護者アンケートから出た意見や要望を尊重し、「発表会の2日間開催」を継続し、保護者や祖父母の方にも観る機会を設けている。また、年2回行われる保護者参観の内容を変更し、乳児は前期、後期ともに、ビデオだったものを後期はおやつ参観にしたりして、保護者の要望に応えるようにしている。</p> <p>毎日の昼ミーティングの中で、サービス内容の変更についても情報交換を行っているが、「サービスの基本となる記録をどのように取り扱っていくか」の検討を望みたい。</p>

Ⅲ-3 サービスの開始・継続

			第三者評価結果
Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。			
Ⅲ-3-(1)-①	利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。	保 49	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-3-(1)-②	サービスの開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。	保 50	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。			
Ⅲ-3-(2)-①	保育サービスの変更や家庭への移行などにあたりサービスの継続性に配慮した対応を行っている。	保 51	Ⓐ ・ b ・ c

評価機関のコメント

<p>市のホームページや法人のホームページを使って情報を提供している。入園にあたり、事前に面接を行い、保育時間の確認やアレルギーの有無について確認を行っている。年度途中で環境の変化やサービス変更は、昼ミーティングで全職員が周知できるようになっている。</p> <p>転園の場合は、保育が継続するように、要録に子どもの姿、様子を記入して転園先に郵送している。また、退園児や未修園児には、水曜日に行われる園庭開放や「ほっとステーション」が利用できることを伝え、保育の継続性に配慮した支援を行っている。</p>
--

Ⅲ-4 サービス実施計画の策定

		第三者評価結果	
Ⅲ-4-(1) 利用者のアセスメントが行われている。			
Ⅲ-4-(1)-①	定められた手順に従ってアセスメントを行っている。	保 52	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-4-(2) 利用者に対するサービス実施計画が策定されている。			
Ⅲ-4-(2)-①	サービス実施計画を適切に策定している。	保 53	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-4-(2)-②	定期的にサービス実施計画の評価・見直しを行っている。	保 54	a ・ Ⓑ ・ c

評価機関のコメント

市の標準様式を用いて入園前にアセスメントが行われ、年度末に確認をしている。
保護者の勤務先の変更や勤務時間の変更、連絡先の変更等は随時行われているが、保護者から連絡がなければ年度末まで気付かない場合がある。病気や怪我など、緊急性を要することもあるので、定期的に見直しを行う機会を設けることが望まれる。

Ⅲ-5 保育所保育の基本

		第三者評価結果	
Ⅲ-5-(1) 養護と教育の一体的展開			
Ⅲ-5-(1)-①	保育所の保育の方針や目標に基づき、発達過程を踏まえ、子どもの心身の発達や家庭及び地域の実態に即した保育過程を編成している。	保 55	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-5-(1)-②	乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	保 56	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-5-(1)-③	1・2歳児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	保 57	a ・ Ⓑ ・ c
Ⅲ-5-(1)-④	3歳以上児の保育において養護と教育の一体的展開がされるような適切な環境が整備され、保育の内容や方法に配慮されている。	保 58	a ・ Ⓑ ・ c
Ⅲ-5-(1)-⑤	小学校との連携や就学を見通した計画に基づいて、保育の内容や方法、保護者とのかかわりに配慮されている。	保 59	a ・ Ⓑ ・ c
Ⅲ-5-(2) 環境を通して行う保育			
Ⅲ-5-(2)-①	生活にふさわしい場として、子どもが心地よく過ごすことのできるような人的・物的環境が整備されている。	保 60	a ・ Ⓑ ・ c
Ⅲ-5-(2)-②	子どもが基本的な生活習慣を身につけ、積極的に身体的な活動ができるような環境が整備されている。	保 61	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-5-(2)-③	子どもが主体的に活動し、様々な人間関係や友達との協同的な体験ができるような人的・物的環境が整備されている。	保 62	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-5-(2)-④	子どもが主体的に身近な自然や社会とかかわれるような人的・物的環境が整備されている。	保 63	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-5-(2)-⑤	子どもが言葉豊かな言語環境に触れたり、様々な表現活動が自由に体験できるような人的・物的環境が整備されている。	保 64	a ・ Ⓑ ・ c
Ⅲ-5-(3) 職員の資質向上			
Ⅲ-5-(3)-①	保育士が主体的に自己評価に取り組み、保育の改善が図られている。	保 65	Ⓐ ・ b ・ c

評価機関のコメント

市の研究発表の課題として、「絵本の読み聞かせ」があり、当園も参加をしている。読み聞かせの中で、それぞれの年齢の子どもたちが興味を持つものは何か、子どもたちが自主的に活動するために何が必要なのかを考え、各年齢にあった環境を整備することが今後の課題であろう。
12月に新たに2部屋が作られ、0、1歳児が同じ部屋の生活から、それぞれの生活リズムに合わせた生活ができるようになった。「0、1歳児の子どもにとって快適な環境のために必要な物的環境は何か」を、今後の園生活の中で見つけ出していきたい。玩具の消毒については、毎日行われることではないので、責任者を明確にすることで「確実な実行」を担保してほしい。

Ⅲ-6 子どもの生活と発達

		第三者評価結果	
Ⅲ-6-(1) 特別なニーズに応ずる保育			
Ⅲ-6-(1)-①	子ども一人ひとりを受容し、理解を深めて働きかけや援助がおこなわれている。	保 66	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-6-(1)-②	障害のある子どもが安心して生活できる保育環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる。	保 67	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-6-(1)-③	長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる。	保 68	a ・ Ⓑ ・ c
Ⅲ-6-(2) 子どもの食と健康			
Ⅲ-6-(2)-①	食事を楽しむことができる工夫をしている。	保 69	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-6-(2)-②	乳幼児にふさわしい食生活が展開されるよう、食事について見直しや改善をしている。	保 70	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-6-(2)-③	子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している。	保 71	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-6-(2)-④	子どもの健康管理は、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している。	保 72	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-6-(2)-⑤	健康診断・歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている。	保 73	Ⓐ ・ b ・ c
Ⅲ-6-(2)-⑥	アレルギー疾患、慢性疾患等をもつ子どもに対し、主治医からの指示を得て、適切な対応を行っている。	保 74	Ⓐ ・ b ・ c

評価機関のコメント

訪問調査中に、怪我の治療のために職員室に来る子どもが数名いた。その都度、職員は園長や園長代理に口頭で報告しており、小さなことでも情報共有を図ろうとの、職員一人ひとりの意識の高さが感じられる。事故防止、再発防止につなげるため、今後も時間や状況等の記録や防止策を記録することを望みたい。

保育課程から月案、週案が作成されており、土曜日についても指導計画が作成されている。延長保育は、4時半から8時までの長時間設定であり、異年齢児の混合保育になるので、一日の保育の継続性を持たせるためにも、指導計画に沿って保育されることを望みたい。

Ⅲ-7 保護者に対する支援

		第三者評価結果	
Ⅲ-7-(1) 家庭との密接な連携			
Ⅲ-7-(1)-①	家庭と子どもの保育が密接に関連した保護者支援を行っている。	保 75	a ・ Ⓑ ・ c
Ⅲ-7-(1)-②	子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通の理解を得るための機会を設けている。	保 76	a ・ Ⓑ ・ c
Ⅲ-7-(1)-③	虐待に対応できる保育所内の体制の下、不適切な養育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び虐待の予防に努めている。	保 77	Ⓐ ・ b ・ c

評価機関のコメント

虐待を疑われる子どもはいないが、見守りが必要な家庭があることから、決められた様式を用いて毎月、市に報告を入れている。市、保険センター、園との話し合いの機会が設けられており、支援を行う体制が整っている。延長保育を利用している保護者への伝達方法は、ふせん紙を使って行われている。しかし、ふせん紙では記録に残らず、紛失してしまう可能性もあるので、伝達内容や伝達したことが記録に残るような仕組みづくりを望みたい。